

**27. 肝の Focal Nodular Hyperplasia の 1 例**

—<sup>99m</sup>Tc-GSA 肝シンチグラフィによる検討—

望月 孝史 加藤千恵次 鐘ヶ江香久子  
中駄 邦博 志賀 哲 伊藤 和夫  
古館 正徳 (北大・核)

肝の focal nodular hyperplasia (以下, FNH) に対して <sup>99m</sup>Tc-GSA による肝シンチグラフィを行った。FNH は核医学検査において特徴的な所見を示すことがあり, colloid 肝シンチグラムでは、低集積例 30%, 等集積例 30%, 高集積例 40% で、肝腫瘍において等集積以上を示した例では FNH の可能性が高いと報告されている。今回 colloid 肝シンチグラムと比較し GSA シンチグラムとの間にはイメージ上大差なく、FNH の Kupffer 細胞が正常部の肝の Kupffer 細胞とほぼ同じ colloid 取り込みをみせるのと同様に、FNH を構成する細胞が、細胞表面にアシクロ糖蛋白受容体を持っていることを示すものと考えた。

**28. 標識長鎖脂肪酸 (BMIPP) 経腸的投与後の健常成人におけるシンチグラム**

丸岡 伸 山崎 哲郎 坂本 澄彦  
(東北大・放)  
高橋 信雄 (同・放部)  
千葉 敏雄 (同・小外)  
中村 尚司 (同・サイクロ)

新しい消化管脂肪吸収能評価法開発のために、健常成人 4 名において BMIPP を経腸的に投与し、そのシンチグラムおよび吸収代謝排泄動態につき検討した。BMIPP (40–102 MBq) を経管的に投与後経時的にシンチグラムを撮像し、また TLD 法にて全身主要臓器の被曝線量を求めると共に尿中ないし各臓器の放射活性分布を検討した。また被験者の一部では高速液体クロマトグラフィを用いて血中および尿中の代謝産物の同定を行った。BMIPP はヒトでも安全な経腸投与が可能であり良好なシンチグラムが得られ、各種病態下における腸管脂質吸収ないし代謝能の臨床的評価への応用は十分可能と考えられた。